

共同助成(福島県遊技業協同組合連合会)

## 「語り人活動の他地域展開による避難者の心のケア」事業

### 大震災と原発事故からの避難を体験した住民が自ら語ることで記憶の風化を防ぎつつ前を向く

東日本大震災から6年が経過した。福島県・富岡町では今年4月1日に東京電力福島第1原子力発電所事故による避難指示の一部が解除されたが、かつてここで暮らしていた約15,000人の住民が安心して戻れる環境には程遠い。帰還する人、帰還しない人、その双方に寄り添いながら大震災の記憶を伝えようと活動している団体がある。



交流サロンやバスツアーなどで震災のときの状況、原発事故から現在に至るまでの状況などについて口演



#### 語り人の口演で震災の記憶を伝えるとともに避難先住民との交流で心のケアを図る

あの日、何が起き、それからどうなったのか…。未曾有の被害をもたらした東日本大震災と、それに続く福島第1原子力発電所の事故。原発から20km圏内にある富岡町では、政府の避難指示に従い、多くの町民が県内の郡山市やいわき市へ、あるいは福島県外に避難した。厳しい避難生活が続かなかで、富岡町の実態を町民自らの言葉で語り伝えることで、記憶の風化を防ごうと結成されたのが、「富岡町3・11を語る会」である。

「富岡町社会福祉協議会の事業として2013年4月に始まった『震災の語り人(ベ)育成派遣事業』が、元々のスタートでした。2015年4月に社協から独立して活動を続け、現在、語り人として口演を行っているのは23名。20代が3名で、あとは65歳以上。最高齢の方は86歳です」

そう話すのは、「富岡町3・11を語る会」代表の青木淑

子さん。同会では現在、語り人による口演と、富岡町から避難している約2,600名(2017年3月1日現在)が暮らす郡山市にある交流サロン「人の駅 桜風舎」の運営を活動の柱にしている。

「口演では最初の約30分を使って、私か副代表が富岡町のこと、大震災のときの状況、原発事故から現在に至るまでの状況などについて客観的なことを話します。その後で語り人が1人あたり約20分で自分の体験や思いを語ります。演題は自由ですが、持ち時間を守ること、単なる行政批判をしないことがルールです。過去のことだけでなく、なるべく今のこと、これからのことを話すようお願いしています。口演は桜風舎、富岡町を巡るバスツアー、海外を含めた出張口演が主な舞台です。また、富岡町から避難している人やそれを受け入れている郡山市民との交流を目的に、月1回の割合で、桜風舎や郡山市内の公共施設で手芸や料理教室、歌声喫茶、企画講座などを実施しています」

#### 自主企画によって交流機会を増やしながら郡山市と富岡町の2拠点での支援を継続する

口演はこれまで各種団体が主催する講座、震災ツーリズム、修学旅行などに依頼されて実施することが多かったが、同会ではAJOSCなどの助成を活用して、自主的な口演やワークショップなどの機会を増やすことに取り組んでいる。「昨年は自主企画として、バス内での口演を含む富岡ツアーやいわき市での口演などを行いました。やはり町外へ避難している方が多く参加しました。自主企画の目的の一つは、避難者同士の交流はもちろんですが、避難している人々と、それを受け入れている避難先の人々との間につながりをつくりたいということです。どこで暮らしていようと、自分が今暮らしているところで幸せだと感じてもらいたい。そのためには同じ市民同士として交流を深めることで、避難者にも新しいコミュニティづくりに参加してほしい。その機会を増やしたいのです」と、青木さん。

富岡町から避難している人々は、2017年4月1日以降、帰る、帰らないという新たな葛藤を強いられることになる。

同会では、当面、桜風舎を拠点に口演や交流活動を続けながら帰還しない人々を支えていくことにしている。同時に帰還した人々が少しでも安心して暮らすことができる環境づくりも支援していきたいという。「とりあえず、富岡町に活動の拠点となる事務所を確保しました。春からは郡山市との2拠点体制で、帰還する人、帰還しない人の両方を支えていきたい」と決意を語る青木さん。

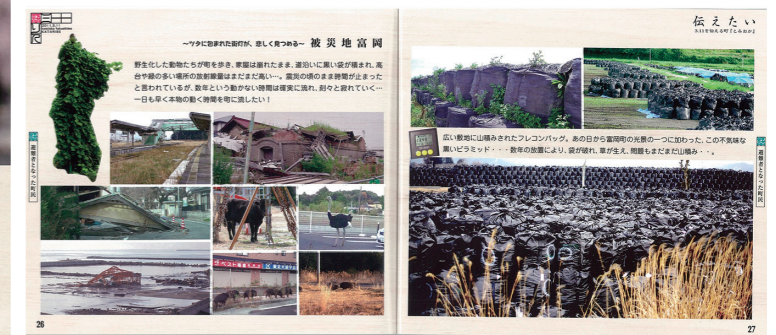
伝える人がいなくなるにつれて、大震災の記憶は時間とともに薄れていく。それでは未曾有の体験を知恵として継承できない。「語り人による口演を通して、これからも私たちを襲った大震災の記憶の伝承に取り組み続けていく」と青木さん。

#### 福島県遊技業協同組合連合会より

避難を余儀なくされた富岡町の実態を町民自らの言葉で語り伝えることが必要だと思います。今後も復興支援に対し、応援していきたいと思っております。



語り人の口演活動の際に使用する資料冊子『伝えたい 3.11を伝える町「とみおか」』



助成団体: 特定非営利活動法人 富岡町3・11を語る会 [http://www.odagaisama.info/?page\\_id=24](http://www.odagaisama.info/?page_id=24)



#### 富岡町の「今」を絶えず伝え続けていきたいと考えています

今回は助成をいただき、感謝しております。語り人の口演活動の際に使用する資料冊子『伝えたい 3.11を伝える町「とみおか」』の改訂・更新に大変役立ちました。富岡町に帰るにしろ、帰らないにしろ、ふるさととつながってほしいと思う人が多いです。そういう方々の心の拠り所となるような活動を今後も続けていきたいと思っています。

NPO法人 富岡町3・11を語る会  
代表 青木淑子さん